

NEWS RELEASE

**年齢だって着替えたい。
30～50代女性で「見た目年齢」を平均マイナス4歳に。
～NTTアド 見た目年齢に対する自己認識と願望調査～**

株式会社エヌ・ティ・ティ・アド(以下「NTTアド」 東京都品川区、代表取締役社長: 中山哲夫)は、『見た目年齢に対する自己認識と願望』について調査を実施いたしました。この調査は、2008年7月3日～8日に首都圏在住の30代～50代の男女個人を対象に、実年齢と見た目年齢および生活シチュエーションとの関わりについて、インターネットアンケート方式で行なったもので、有効回答者数は317人でした。

周知の人々からの見た目の評価は「若々しさ」への判断軸として、大きな意味を持つものと考えられます。その一方、多様な場面で、多様なコミュニケーションを行っている現代人は、「若く見られたい」というばかりではなく、“見られる”自分、“見られたい”自分も多様であることが想定されます。

NTTアドでは、これからも、現在進行形のコミュニケーションが社会・文化・消費に与える影響について、様々な視点で調査研究を続けます。

＜調査のまとめ＞

①見た目年齢についての現状認識

- ◎自分はいまより「実年齢より若く見られている」と考える人は、男性で60%、女性で77%と大勢を占めた。
- ◎実年齢との年齢差は、「実年齢マイナス1～5歳」が大半であるが、「実年齢マイナス10歳以上」という回答も男女ともに見受けられた。

②見た目年齢がもたらす感情

- ◎若く見えるといわれたときに「うれしくなる」人は、女性では82%であるのに対し、男性では43%に留まった。
- ◎若く見られたときに感じる「もっとおしゃれをしたくなる」「やる気が沸いてくる」といった回答も、女性が男性を大きく上回る。「若く見える」と言われることが、女性にとって前向きな生活スタイルへの活力となっていることがわかる。

③見た目年齢に関する傾向

- ◎男女ともにいまだ「常に若く見られたい」という回答が多数派であるものの、女性では、「年相応」よりは「状況や相手によって異なる」という回答の方が多く、シチュエーション別で、見た目年齢を変えたい欲求が見て取れる。
- ◎シチュエーション別では、どんな場合も男女共に実年齢より若く見られたいという結果ではあるもの、女性はシチュエーション別に見られたい年齢の幅が男性に比べ大きいものとなった。
- ◎とりわけ女性が若く見られたいのは「最新スポットへのおでかけ」「同窓会等」「趣味や習い事の集まり等」であった。特に女性は、TPOによって、設定する『見た目年齢』が異なり、“ハレの場”では、“ケの場(家族と一緒にいる時等)”に比べて、若く見られたいという願望が男性に比べ、かなり高まることが確認できた。

女性が今日の消費社会をリードしていることについては論を待たないところであり、仕事・遊び共に、男性に比して多様なライフスタイルを楽しんでいるように見える。今やますます積極的になった女性達は、“実年齢(タテ軸)”に縛られず、ファッションを選ぶのと同じ感覚で、“TPO軸(ヨコ軸)”に応じて見た目年齢まで自由に着替えるようになってきた。これからは、彼女たちの消費行動を考えるときに、“TPO+A(Age)”が鍵になってくるのではないだろうか。

<調査結果抜粋>

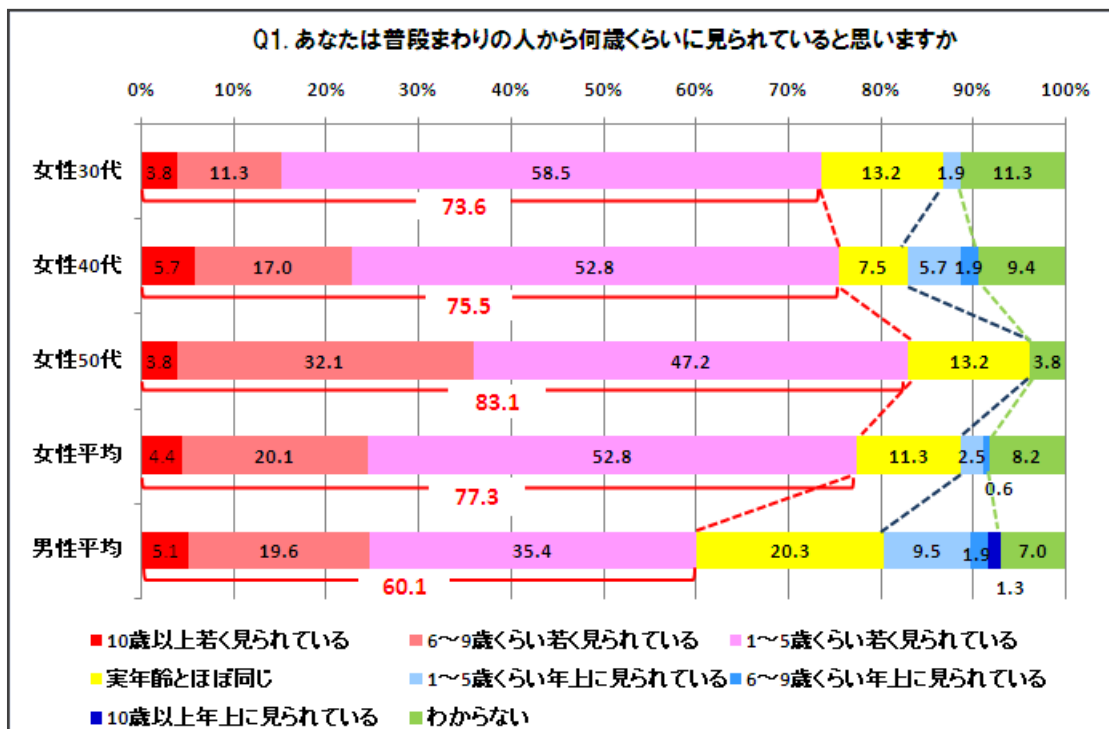
①見た目年齢についての現状認識

◎「(自分は)実年齢より若く見られていると思う」という回答が、男性平均 60% 女性平均 77%と、「実年齢相応」「年上に見られている」の回答を大きく超える結果となった。

特に女性 50 代では「若く見られていると思う」という回答が 8 割を超え、逆に「年上に見られていると思う」という回答はゼロであった。

「若く見られていると思う」という回答は、「若く見られたい」「若く見られているはず」という意識や願望も含んでいると考えられ、見た目年齢に対する男女の意識差が現れた結果となった。

◎なお、実年齢との年齢差を見ると、「実年齢マイナス 1～5 歳くらい」が大半であるものの、「実年齢マイナス 10 歳以上」も、男性で 5% 女性で 4% であった。一方、年上に見られる人の中には、「実年齢プラス 10 歳以上」の男性も 1% 含まれていた。

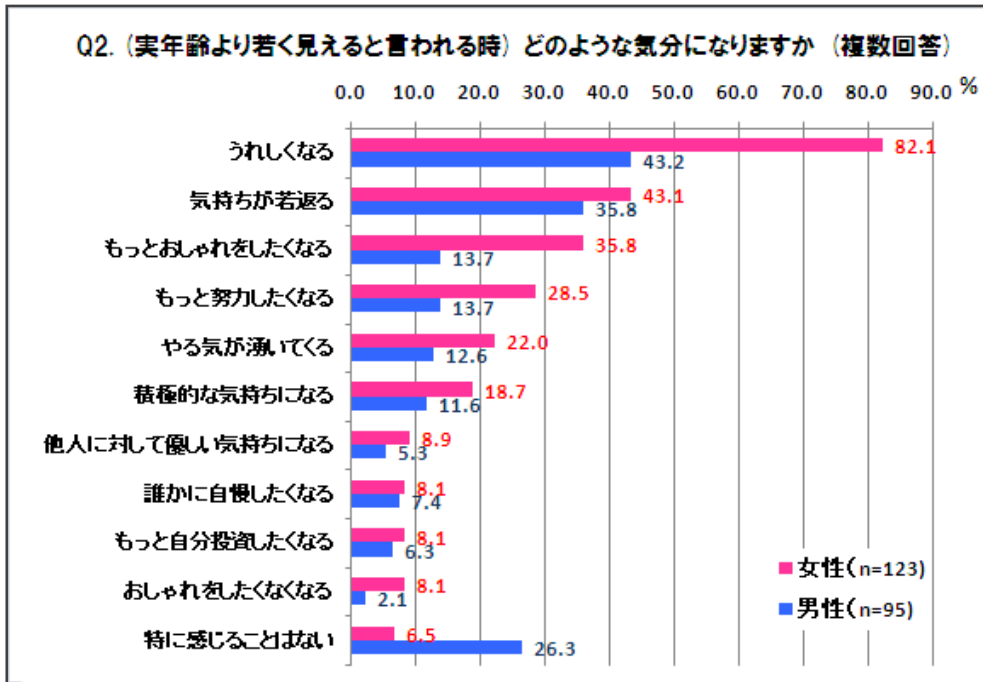


②見た目年齢がもたらす感情

◎「若く見えると言われる”人”に、そのときの気分を尋ねると、女性では 8 割以上が「うれしくなる」と答えたが、男性では 4 割に留まった。

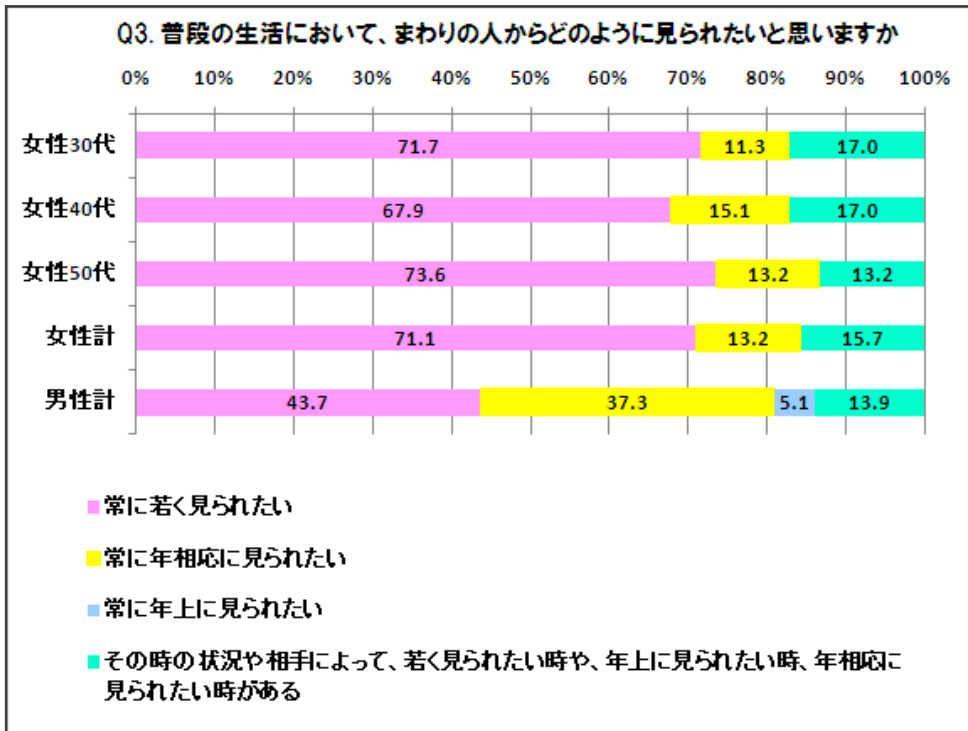
◎また、「もっとおしゃれをしたくなる」「もっと努力をしたくなる」「やる気が沸いてくる」「積極的な気持ちになる」など、いずれも女性の回答率が、男性を大きく上回った。

女性にとって、周囲から“若く見える”といわれることが、前向きな生活スタイルを導き、更に“若々しく見える”という正の相関が考えられるかもしれない。一方、男性では、「特に感じることはない」という回答も多く、見た目年齢についての他者評価には、ややクールな回答結果となっている。



③見た目年齢に関する傾向

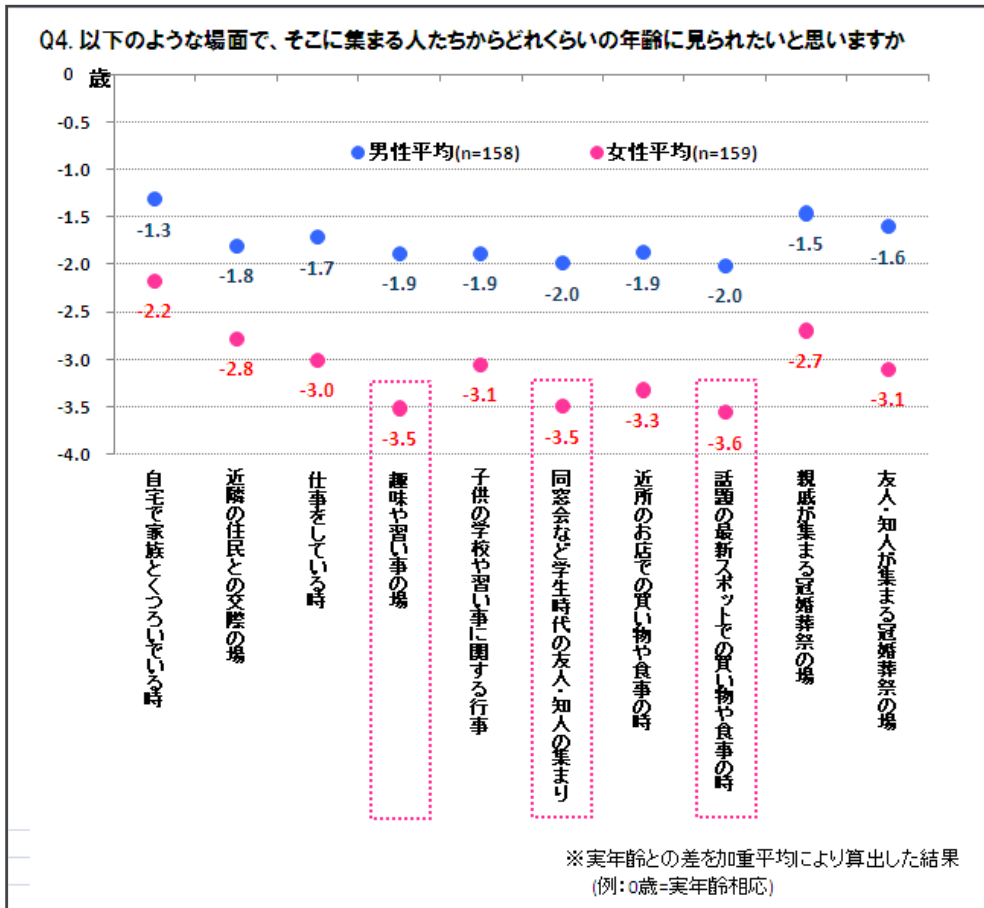
◎「普段の生活において、まわりの人からどのように見られたいと思うか」という設問で、見た目年齢に対する全般的意向を確認すると、やはり「常に若く見られたい」という回答が、男性で44% 女性で71%と最も多かった。だが、女性では、「その時の状況や相手によって、若く見られたい時や、年上に見られたいとき、年相応に見られたい時がある」という回答が16%あり、「年相応に見られたい」13%よりもよりの結果となった。両者の差が最も大きかったのは、女性30代で、「その時々で」17% 「年相応」11% となっている。シチュエーションに応じてファッションを着替えるように、年齢もまた自らのイメージする“その場にふさわしい”姿に自由に着替えていこうとする意識をもった女性たちの存在が認められる。



◎具体的なシチュエーション別に、どのような年齢に見られたいかを尋ね、集計結果を加重平均したところ、男女とも、いずれも実年齢より若い(マイナスとなる)年齢となった。とりわけ、女性は男性よりその傾向が強く現れた。

◎個々のシチュエーションで見られたい年齢は、男性は、0.7 歳(-1.3 歳~-2.0 歳)の違いがあるが、女性では 1.4 歳(-2.2 歳~-3.6 歳)と幅が拡大し、「最新スポットでの買い物や食事の時」「同窓会など学生時代の友人・知人の集まり」「趣味や習い事の場」などで、より若く見られたい傾向となった。また、冠婚葬祭の場でも、「親戚が集まる時」と「友人・知人が集まる時」とでは、見られたい年齢も異なる結果となった。

女性は、シチュエーションと、そこで繰り広げられるコミュニケーションによって、それぞれ異なる“見られたい”自分の姿というものが、具体的にイメージできているのかもしれない。時・場所・場合に応じて、ふさわしいファッションを選ぶように、年齢もまた、自由に、状況に合わせて着替える—これからは、“TPO”に年齢(Age)を加えた“TPO+A”を考える時代になりつつあるとも考えられる。



<調査概要>

■調査手法: インターネット調査

■調査対象: 首都圏在住の 30 代~50 代個人男女

男性 30 代 52 名 40 代 53 名 50 代 53 名 (計 158 名)

女性 30 代 53 名 40 代 53 名 50 代 53 名 (計 159 名) 合計 317 人

■調査期間: 2008 年 7 月 3 日~8 日

<問合せ先>

(株)NTTアド コミュニケーションプランニング局 (松縄・久米) TEL 03-5745-7623 FAX 03-5745-7673

以上